

里山グループ

研究協力者 平成 17～19 年度

佐川 哲也（金沢大学教育学部教授）
中村 晃規（金沢大学角間の里研究員）

1. グループの概要

平成 17 年、金沢大学角間キャンパス内の里山ゾーンに「金沢大学創立 50 周年記念館（角間の里）」が整備されたことを受け、それまで単発的に行ってきた里山学習を計画的・発展的に行うために立ち上げたグループである。メンバーは 3 年間で入れ替わりがあったものの小学部・中学部それぞれ 1～4 人で構成され、3 年間通して取り組んできたメンバーもいる。

私たちは、里山をフィールドとした野外活動を経験することは、本校のような知的障害のある子どもたちにとっても以下のような点で有効であろうと考え、「ほんもの」の自然を五感で味わい、人・もの・自然とのかかわりを広げていくことを願い実践してきた。

○散歩をしたり、調理をしたり、物づくりをしたりといった体験的な活動は関心もちやすく、意欲的に取り組むことができる

○自然の中で、風や光を受けて穏やかな表情で過ごしたり、土や水の感触を存分に楽しんだり、季節の生き物や植物を発見して興味をもったりすることで心理的な安定が育まれる

○里山で出会う人・もの・自然とのかかわりの経験が日常生活の幅を広げる

金沢大学の佐川教授や里山自然学校研究員の中村氏と連携しながら、「角間の里」スタッフ、里山メイト、ボランティアにも協力していただき実践を重ねてきた。グループのメンバーだけでなく、活動に携わった教師の協力も得て活動内容を検証し、改善したり発展させたり、また、新たに開発しながら 2 年目、3 年目の実践につなげてきた。

2. これまでの研究について

里山グループでは 3 年間を通して「特別支援（養護）学校における児童生徒の里山を活用した学習プログラムの開発」というテーマで研究に取り組んできた。

（1）平成 17 年度

本校の小学部や中学部の児童生徒を対象に「角間の里」周辺の里山を活用した学習プログラムを計画・実践し、その中で自然の豊かさを味わい、自然を楽しむ態度を育むためにはどうしたらよいのか探ることを目的として研究をすすめた。

まずはプログラムの基礎となる活動の実践を積み重ねた。「角間の里」を利用することで大学との連携がしやすくなり、平成 13 年度より続いている里山学習をより計画的・発展的に行えるようになった。さらに本校の児童生徒に合う里山学習プログラムを探り、また教育課程での位置づけを明確にしていくことが課題となった。

（2）平成 18 年度

前年度の実践を活かし、研究を行った。子どもたちにとって有効であった活動に継続して取り組むことに加え、新しい活動も積極的に取り入れた。そのことにより四季の変化や

活動集団に応じて、多彩な活動を組み立てられるようになった。また、「角間の里」において教職員対象の研修を行えたことで里山への理解が深まり、高等部の里山利用につながった。教育課程について中学部では「総合的な学習の時間」として位置づけることができた。今後も定期的に里山に出かけられるよう年間計画に位置づけることが大切であり、これまでの実績を実践事例集にまとめていくことを確認できた。

(3) 平成 19 年度

今年度は本校の児童生徒を対象に「角間の里」周辺の里山を活用した今までの学習活動を検証し、実践事例集にまとめ、また新たなプログラムを探っていくことを目指して取り組んでいる。今年度の実践研究については p. 125 を見てほしい。

3. 研究の成果

(1) 里山学習の有効性

四季の変化や活動集団に応じて多彩、かつ充実した里山学習が展開されるようになり、「ほんもの」の自然を五感で味わい、人・もの・自然とのかかわりを広げていく児童生徒の姿を見ることができた。自然の豊かさを味わい、自然を楽しむ態度を育むために有効であった学習活動をまとめ、学習プログラムとして表Ⅰ、表Ⅱに示す。

(2) 教育課程への位置づけ

今後も定期的に里山での活動を行っていくことや里山学習を継続して行く上で、この里山での活動を教育課程上に位置づけることが必要であった。そこで、各学部で協議しそれぞれ以下の観点で位置づけることができた。

- ・ 小学部 「生活」の活動の一つ
 - ①活動に興味や関心をもつ
 - ②身近な自然の中で遊び、動植物とふれあう
 - ③人とのかかわりを広げる
 - ④身近な公共施設や公共物を利用する
- ・ 中学部 「総合的な学習の時間」
 - ①活動に興味をもち、意欲的に参加する
 - ②季節に応じた活動を通して、自然とふれあう
 - ③人とのかかわりを広げる
 - ④活動を通していろいろな道具の扱いを経験する

(3) 里山への理解を広げる活動

全校集会で季節毎の里山の様子や活動の様子を伝え、活動に参加した児童生徒にはふりかえりに、参加していない児童生徒には関心をもってもらえる時間となった。また、図鑑などの図書を購入し「里山文庫」を設けることで、里山の植物や虫への興味が広がったり、活動のヒントを得たりすることができた。

本研究の成果である活動内容を集め、実践事例集を作成することができた。改善や工夫の余地はたくさんあると思われるが、「角間の里」を利用して活動しようとする諸団体に活用してもらいたい。広く活用してもらおうことで里山への理解を広げる一助になることを願っている。

表 I 小学部の成果

「生活」の時間にかかわり、4つの観点〈A興味・関心 B自然とのふれあい C人とのかかわり D公共施設の利用〉を設定

	活動内容	時季	ねらい〈4つの観点〉
自然に親しむプログラム	遊歩道を歩こう	春夏秋冬	遊歩道を歩きながら四季の様子を感じとる 〈AB〉
	森のコンビニに行こう	春夏秋冬	里山内のコンビニに出かけ買い物をする 〈ABD〉
	タケノコ掘り	春	竹林を歩き、タケノコを見つけ掘り出す 〈ABC〉
	昆虫採集	春夏秋	様々な昆虫に興味をもって探し、捕まえて観察する 〈ABC〉
	里山探検隊	春夏秋	地図を見ながら、様々な遊歩道を歩く 〈ABC〉
	オタマジャクシを捕まえよう	春夏	池のオタマジャクシなどの水棲生物に興味をもって探し、捕まえて観察する 〈ABC〉
	天の川を作ろう	夏	星(紙)を集めて歩き、持ち寄った星を紙に貼って天の川を作る 〈ABC〉
	ドングリひろい	秋	ドングリを探して歩き、拾い集める 〈AB〉
	ドングリで遊ぼう	秋	ドングリでおもちゃ(コマ、笛など)を作ったり、樋で流したりして遊ぶ 〈ABC〉
	落ち葉で遊ぼう	秋	落ち葉をまき散らしたり、お風呂遊びをしたりして、葉っぱの感触に親しむ 〈ABC〉
雪あそび	冬	そりすべりや雪だるま作りなどを行い、雪の感触を楽しむ 〈ABC〉	
野外調理プログラム	焼きおにぎり	春夏秋冬	ごはんを片栗粉をまぶし、五平餅のようにして焼き、味わう 〈ABCD〉
	竹筒ごはん	春夏秋冬	里山にある竹を利用してごはんを炊き、味わう 〈ABCD〉
	ねじねじパン	春夏秋冬	パン生地を里山の枝に巻き付けて焼き、味わう 〈ABCD〉
	豚汁	春夏秋冬	野菜や豚肉などの材料で豚汁を作って味わう 〈ABCD〉
	焼きそば	春夏秋冬	焼きそばを作って味わう 〈ABCD〉
	バーベキュー	春夏秋冬	バーベキューの材料となる物を鉄板で焼いて食べる 〈ABCD〉
	流しそうめん	夏	里山の竹を利用して、樋や器、箸を作り、流しそうめんを楽しみながら食べる 〈ABCD〉
	かき氷	夏	かき氷を作って食べ、涼をとる 〈ABCD〉
屋内を利用したプログラム	お話タイム	春夏秋冬	山姥に扮した先生から昔話を聞いたり、日本昔話のDVDを視聴したりして里山をイメージして過ごす 〈ABCD〉
	里山クイズ	春夏秋冬	里山にちなんだ題材(季節の話題、昆虫など)をクイズ形式でテレビに映し出し、答えたり楽しんで見たりする 〈ABCD〉
	宝さがし	春夏秋	里山にちなんだ物(昆虫、葉っぱなど)を室内にたくさん貼り、それを探して集める 〈ABCD〉
	ドングリで遊ぼう	秋	ドングリでおもちゃ(コマ、笛など)を作ったり、樋で流したりして遊ぶ 〈ABCD〉
	落ち葉で遊ぼう	秋	落ち葉をまき散らしたり、お風呂遊びをしたりして、葉っぱの感触に親しむ 〈ABCD〉
	冬の遊び	冬	コマ回しやカルタ取りなど冬の遊びをして楽しむ 〈ABCD〉

表Ⅱ 中学部の成果

「総合的な学習の時間」にかかわり、4つの観点〈A興味・意欲 B自然とのふれあい C人とのかかわり D道具の扱いの経験〉を設定

		活 動 内 容	ね ら い 〈4つの観点〉
自然・季節 プログラム	春	タケノコ掘り ・タケノコの先を見つける ・鍬で掘る ・運ぶ ・味わう	・自然の中でタケノコが生えている様子を知る (AB) ・メイトさんに教えてもらいタケノコ掘りの体験をする (ACD)
		七夕 ・竹を切る ・飾りを作り、飾る ・七夕の話聞く	・タケノコが大きくなって竹になることを知り、のこぎりで切る (BCD) ・七夕の話聞き、友だちと一緒に短冊を飾る (AC)
	夏	流しそうめん ・竹を切り、樋や器を作る ・流しそうめんを楽しむ	・のこぎりで竹を切り、樋や器を作る (CD) ・竹の樋にそうめんを流し、楽しむ (AB) ・そうめんや、収穫した夏の野菜を味わい、夏の味覚を楽しむ (AB)
		虫捕り ・虫を見つけ、捕まえる ・興味をもつ	・虫を捕まえるおもしろさを知り、虫に興味をもつ (AB)
	秋	ドングリ・木の実拾い ・木の実を見つける・制作	・ドングリ拾いを楽しむ (AB) ・自分たちが拾ったものを使い、制作をする (D)
		冬	雪遊び・かんじき体験 ・雪を楽しむ ・昔の道具を体験する
	年間	散策 ・風や光を感じる ・生き物を見つける	・季節を通して里山を訪れ、草花や生き物、風や温度などの季節を感じ、穏やかに過ごす (AB)
農業・生活 プログラム	春	畑作り ・草取り・種まき・苗植え (トウモロコシ、トウガン、メロン、スイカ等)	・草を取り、友だちと一緒に根気よく作業に取り組む (BCD) ・収穫するものを楽しみにして、種まきや苗植えをする (ABCD)
		夏・秋	収穫 ・刈り取る・運ぶ・束ねる 脱穀 ・皮をむく・干す
	秋	調理 ・買い物・準備・調理 ・かたづけ (スイカ祭り、ポップコーン等)	・収穫したものを味わい、楽しむ (AB) ・給食や会食で、多くの人に味わってもらい、喜びを感じる (AC)
		販売 ・加工・接客・計算 (給食、ミニバザー等)	・加工販売し、買ってもらうことで、喜びを感じる (ACD)
体づくり プログラム	年間	オリエンテーリング ・ポイントを見つける ・協力する ・たくさん歩く ・昼食のための分担、準備	・里山の各ポイントを見つけ、達成の喜びを感じる (AD) ・グループの友だちと協力する (C) ・季節を感じながら、歩く (B) ・昼食の準備を行い、満足感を味わう (AD)

すべての活動にかかわって、事前・事後指導を行う

〈事前指導〉事前に写真や実物を用いて活動の具体的な内容を示し、見通しがもてるようにする

〈事後指導〉絵日記や作文、作品作りなどを通して、活動をふりかえる